

第3節 病棟

1 第1病棟

<病棟機能>

- 精神病棟入院基本料13：1算定可能な急性期病棟である。
- 主に急性期の集中的な治療を要する精神疾患患者を対象に、電気けいれん療法を目的とした患者等を受け入れている。
- 感染症（結核・新型コロナウイルス感染症等）を合併した患者を治療する専用病室を備えている。

<病床数> 30床

保護室	個室	2床室	4床室	計
6	12	4	8	30

<スタッフ>

医師	4人	(兼務 2人)	看護師	22人
精神保健福祉士	2人	(兼務 1人)	公認心理師	1人
作業療法士	1人	(兼務)		

<統計>

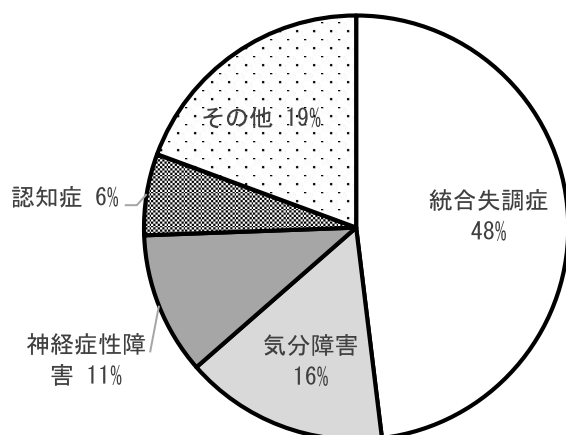
◇病床運営状況

入院患者数 (転入患者数)	退院患者数 (転出患者数)	病床利用率	平均在院日数
85人 (44)	124人 (6)	67.4%	58.7日

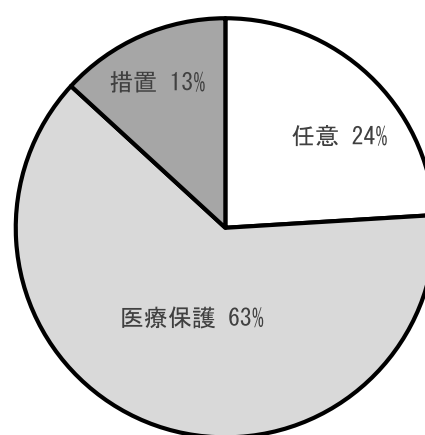
◇患者の状況

○平均年齢 52.6歳

○主な疾病



○入院形態



<活動報告>

プログラム	内容	開催	回数	患者数 (人)	スタッフ (人)
患者ミーティング (ふれあいの会)	入院集団精神療法 他者（他患者・病院スタッフ）との交流を通し、対人関係を学ぶことを目的としている。	月2回	17	99	52
レクリエーション	精神科作業療法 変化の少ない入院生活において、季節の行事や調理OT等を行い入院生活の楽しみ、気分転換の機会にもなっている。	月2回	17	96	49

<まとめ>

令和2年度は感染症専用病床で新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)患者を11名受け入れた。また、電気けいれん療法を101件施行し、合併症割合は全体の約18%であった。

精神病棟入院基本料13:1としての基準を遵守できるように、多職種連携と情報共有を推進した。さらに、家族を含めた生活支援を視野に入れたチーム医療を実践している。以下に、令和2年度の取り組み状況を述べる。

1 救急病棟の後方支援病棟としての役割と他病棟からの患者受け入れ

当病棟は救急病棟(第6病棟)の後方支援としての役割を果たす必要がある。今年度は、新型コロナ患者を受け入れつつ、第6病棟から38名、その他の病棟から5名の患者を受け入れた。病床利用率は67.4%と前年度より下降したが、病棟状況に応じた転棟、転入は多職種連携のもとスムーズに行えた。

2 安全な病棟運営

新型コロナ患者の受け入れに伴い病棟対応マニュアルを作成し感染対策を徹底した。病棟内2次感染の発生はなかった。さらに、安全な病棟運営を目指し、病棟救急トレーニング(2回)、毎朝の危険予知活動(指さし呼称)、災害時の避難経路の確認等を実施した。今年度は感染防止徹底のため、eラーニングを活用した学習を推進し知識を深めた。

3 倫理観の向上

公務員として、医療者としての倫理観向上を目指し、病棟での倫理ミニカンファレンス(18回)と倫理学習会(2回)を開催した。

2 第2病棟

<病棟機能>

- アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症等の治療を行う専門病棟である。
- 依存症治療の動機づけや断酒・断薬を継続するための集団プログラムの実施、自助グループやリハビリテーション施設のプログラムの活用により、回復のための援助を行う。

<病床数> 40床

保護室	個室	2床室	4床室	計
4	4	12	20	40

<スタッフ>

医師	3人	(兼務 1人)	看護師	20人
精神保健福祉士	2人		公認心理師	1人
作業療法士	3人			

<統計>

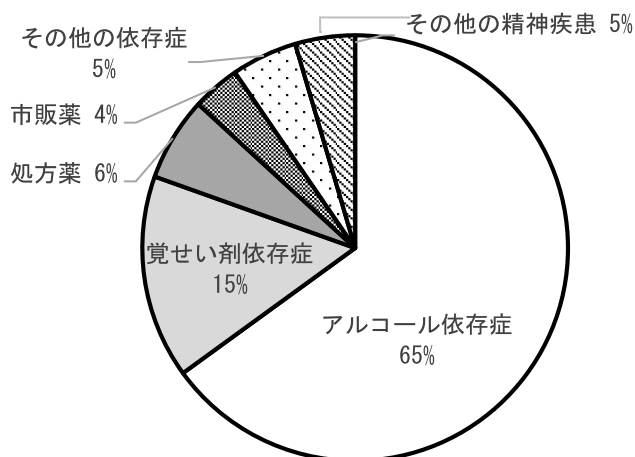
◇病床運営状況

入院患者数 (転入患者数)	退院患者数 (転出患者数)	病床利用率	平均在院日数
220人 (18)	218人 (6)	69.2%	48.8日

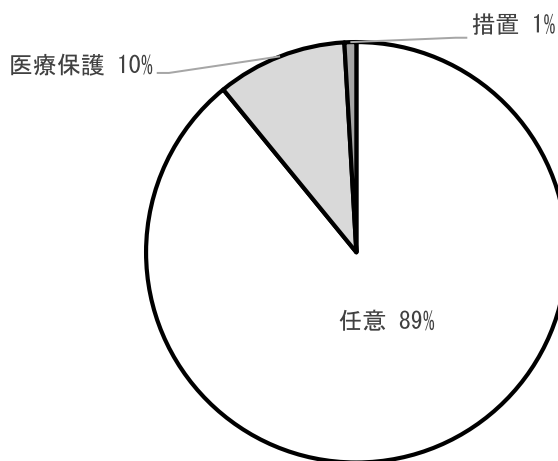
◇患者の状況

○平均年齢 49.8歳

○主な疾病



○入院形態



<活動報告>

プログラム	回数	患者	医師	看護師	療養援助
レクリエーション	56	606	0	86	4
スマイルイベント	12	170	1	16	25
ダルクメッセージ	4	30	0	3	2
フリッカメッセージ	3	7	0	2	2
マックメッセージ	8	87	0	9	0
作業療法	23	280	0	27	25
ウォーキング	9	88	8	17	2
ヨガ・瞑想	25	257	0	27	27
SGM	31	494	28	71	31
CST（再発予防プログラム）	49	700	50	99	51
勉強会	46	755	46	50	46
病棟ライフ	10	33	0	9	13
断酒会メッセージ	5	63	0	5	0
AAメッセージ	13	168	0	17	3
NAメッセージ	2	15	0	2	3
残棟プログラム	27	267	0	28	0
体力増進プログラム	15	184	0	23	2
集団栄養指導	6	80	0	6	0
感染対策講座	1	13	0	1	0
酒歴・薬歴発表	15	226	15	18	18
断酒会参加（こころの広場）	5	16	0	0	0
AA参加（下落合）	3	7	0	0	0
DVD鑑賞	18	202	0	18	0
テキストミーティング	39	515	1	45	26
スタッフ合同ミーティング	18	255	1	34	18
年末ミーティング	1	10	0	1	0
ニューイヤーミーティング	1	11	0	1	0

<まとめ>

1 病床利用状況

病床利用率は71.0%の目標に対し、69.2%であり目標値に達しなかった。緊急入院のタイムリーな受け入れや、依存症に関連する他施設との更なる連携の強化は図れたが、入院患者数は前年度より18名の減少となった。

2 実践力の強化

一昨年度、病棟で発生した予期せぬ急変事象からの学びを風化させないため、昨年度に引き続き強化週間を設定した。事象からの学びの再共有、強み、決意の表明、救急場面のトレーニングを実施した。

3 コロナ禍におけるプログラムの実施

COVID-19感染拡大防止のため、自助グループや中間施設のメッセージ等、院外の講師を招いてプログラムを実施することが困難となった。関係機関のご協力を得て、オンラインでの実施を試み、ほとんどのメッセージプログラムが実施可能となった。

また、地域連携の取り組みとして、退院前訪問や地域連携カンファレンスの実施率は上昇した。特に地域連携カンファレンスは実施日程を可視化し、スタッフに取り組みが浸透した。

3 第5病棟

<病棟機能>

- 児童・思春期の精神疾患患者の治療を行う専門病棟である。
- 埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校を併設している。
- 医療・教育・保健・福祉などの各機関と連携し、治療の継続を図っている。

<病床数> 30床

保護室	個室	4床室	計
3	27	0	30

<スタッフ>

医師	4人	(兼務 1人)	看護師	22人
精神保健福祉士	1人		公認心理師	3人
作業療法士	1人			

<統計>

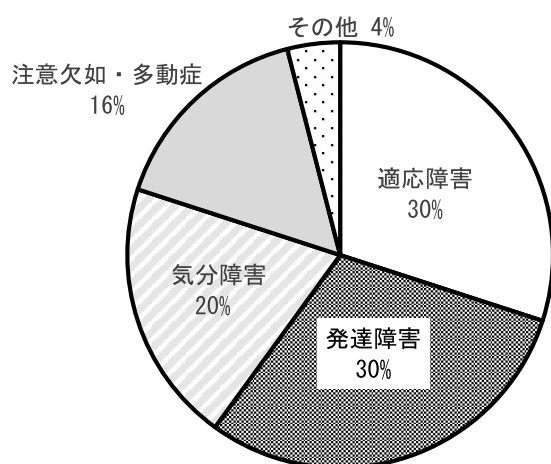
◇病床運営状況

入院患者数 (転入患者数)	退院患者数 (転出患者数)	病床利用率	平均在院日数
40人 (10人)	52人 (1人)	93.9%	223.6日

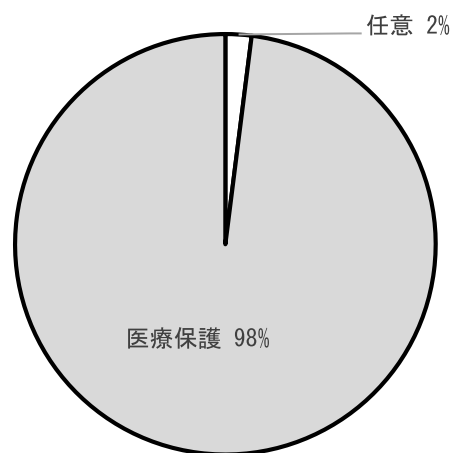
◇患者の状況

○平均年齢 13.6歳

○主な疾病



○入院形態



<活動報告>

(1) 病棟ミーティング

病棟に関わる全ての人達の間で双方向性のコミュニケーションを促進すること、病棟の子どもたちに起きている関係性や力動を理解し受け入れることを目的に週1回水曜日に実施している。コンダクターは医師、コ・コンダクターは看護師または療養援助部職員が行っている。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			患者	看護師	医師	療養援助部職員
病棟ミーティング	毎週水曜日	48回	626人	101人	49人	96人

(2) レクリエーション

週1回木曜日、患者が興味・関心をもって参加でき、季節を感じられるようなレクリエーションをOT・看護師が中心となり企画・運営している。レクリエーション活動を通じて、集団生活を体験することや仲間作りを目的としている。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			患者	看護師	医師	療養援助部職員
レクリエーション	毎週木曜日	43回	562人	96人	16人	70人

(3) 家族教室

家族援助の一環として、情報提供と家族交流の場を提供することを目的とし、広汎性発達障害の患者の家族を対象に年3クール（4回／1クール）実施し、クールの最後の回には茶話会を行った。「疾患についての医学的知識」、「子どもへの対応法」、「教育現場における資源について」、「社会資源について」等の講義およびグループワークを実施した。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			家族	看護師	医師	療養援助部職員
家族教室	土曜日	2クール	26人	10人	2人	2人

(4) グループ活動

対人関係のスキル・自主性の向上を目的とし、男女に分かれてグループ活動を実施している。

活動には医師・看護師・コメディカルが付き添い、週1回1時間の定例会で患児が企画した内容を実施している。社会性を育みルールを学ぶことを目的に、集団で公共施設を利用するなど病院外活動も取り入れている。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			患者	看護師	医師	療養援助部職員
グループ活動	毎週月曜日	43回	863人	145人	6人	113人

(5) インターネットやゲームの使用問題に悩む親の会

ゲームやインターネットに没頭して不登校や家庭内暴力に発展するといったトラブルが社会的な問題になっている。インターネットやゲームの使用をテーマに、行動嗜癖問題における家族支援の一環として2クール（5回/1クール）実施した。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			家族	看護師	医師	療養援助部職員
インターネットやゲームの使用問題に悩む親の会	金曜日	2クール	55人	12人	10人	7人

(6) ペアレントトレーニング

ゲームやインターネットに没頭して不登校や家庭内暴力に発展するといったトラブルが社会的な問題になっている。インターネットやゲームの使用をテーマに、行動嗜癖問題における家族支援の一環として実施した。

プログラム	開催日	回数	延べ参加人数			
			家族	看護師	医師	療養援助部職員
ペアレントトレーニング	金曜日	11回	29人	36人	15人	32人

<まとめ>

- 1 平均病床利用率93.9%であり、昨年度より1.3ポイント下降した。病棟運営会議にて入退院状況を確認し、ベッド調整を行うと共に、他病棟との連携を図り転入受け入れを行った。
- 2 新型コロナウイルス感染症により、入院制限、面会制限、感染症発生時の対応を病棟内で対策を行った。
- 3 埼玉県けやき特別支援学校伊奈分校との情報交換会を毎月1回開催し、学校との情報共有を図った。また、毎月の学校病棟連絡会では、学校と病棟との連携を図った。

4 第6病棟

<病棟機能>

- 平成19年5月精神科救急入院料Ⅰ算定の認可を受け、夜間・休日の緊急入院を中心に埼玉県精神科救急医療体制整備事業を補完する病棟である。
- 医療観察法の鑑定入院・特例1・特例2を受け入れている。
- 早期退院に向けてチーム医療を行い、地域への医療の継続性を図る。

<病床数> 50床

保護室	個室	4床室	計
20	30	—	50

<スタッフ>

医師	6人	(兼務 2人)	看護師	34人
精神保健福祉士	3人		公認心理師	1人
作業療法士	1人			

<統計>

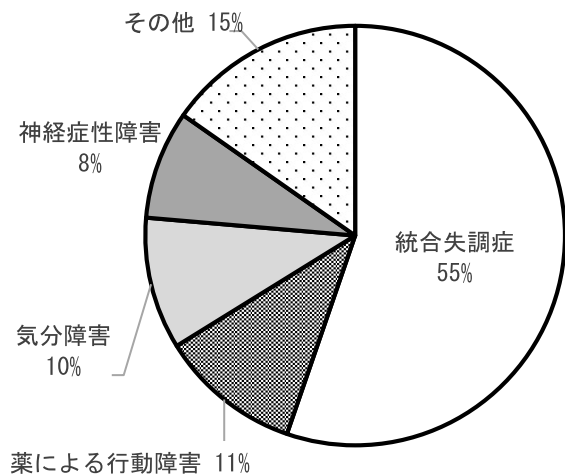
◇病床運営状況

入院患者数 (転入患者数)	退院患者数 (転出患者数)	病床利用率	平均在院日数
275人 (5)	222人 (59)	85.1%	61.9日

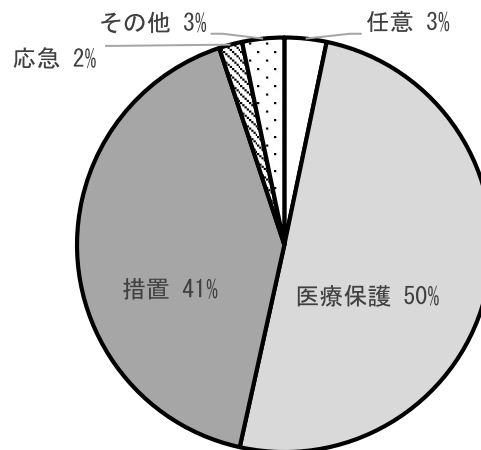
◇患者の状況

○平均年齢 42.6歳

○主な疾病



○入院形態



<活動報告>

(1) 服薬S S T

病気と薬の作用についての情報を提供し、入院前の精神状態を現状と比べながら振り返ることで、アドヒアランスの向上を目指す。

プログラム	開催日	回数	家族	医師	看護師	療養援助部 職員	参加人数合 計
服薬S S T	毎週火曜日	27回	66人	0人	55人	1人	125人

(2) 病棟懇談会

集団内の対人関係の相互作用を用いて、対人場面での不安や葛藤の除去、患者自身の精神症状・問題行動に関する自己洞察の深化、対人関係技術の習得をもたらして症状の改善を図る。

プログラム	開催日	回数	家族	医師	看護師	療養援助部 職員	参加人数合 計
病棟懇談会	第1・3木曜日	16回	138人	16人	22人	21人	197人

(3) レクリエーション

レクリエーション活動を行い、他患・スタッフとの交流を通し、対人関係を学ぶ。

プログラム	開催日	回数	患者	医師	看護師	療養援助部 職員	参加人数合 計
レクリエーション	第2・4木曜日	22回	219人	1人	34人	34人	288人

(4) 家族教室

統合失調症の患者をもつ家族に対して希望を募り、医師から疾病教育、看護から対応の仕方、療養援助から医療福祉サービスについて指導を行う。また、家族の不安や悩みの共有の場としての話し合いも行う。

プログラム	開催日	回数	家族	医師	看護師	療養援助部 職員	参加人数合 計
家族教室	第4月曜日	4回	7人	4人	8人	4人	27人

<まとめ>

- 1 病床利用率は82.3%であり、昨年度より1.7ポイント低下した。月毎の病床利用率に関しても、78.3%～89.2%と大きな差が生じていた。多職種との連携を強化し、安定した病床利用率を確保できるような体制の整備が課題である。
- 2 病棟内プログラムに関しては、密を避けたり、調理プログラムを中止する等の感染対策を強化した上で開催した。レクリエーションでは「手作りマスク」を作成し、患者自身が感染対策を意識できるようなプログラムを実施した。
- 3 家族教室に関しては、下半期は感染対策により中止したが、家族が疾患や患者との関わり方を学ぶ機会の提供や家族同士の交流の場となるため、次年度は感染対策を講じた上で開催できるよう検討する。
- 4 緊急入院を常時受け入れる体制の維持に関しては、病棟運営会議や病棟間調整会議に加え、1病棟のベッドコントロール会議に参加し情報共有の強化に努めた。また、転棟に関しても、他病棟との連携が強化され退院前訪問も増加し、よりスムーズに実施できるようになった。

5 第7病棟

<病棟機能>

- 医療観察法の対象者に入院医療を行う専門病棟である。

<病床数> 33床

保護室	個室	4床室	計
2	31	0	33

<スタッフ>

医師	4人	(兼務 1人)	看護師	43人
精神保健福祉士	3人		公認心理師	2人
作業療法士	2人			

<統計>

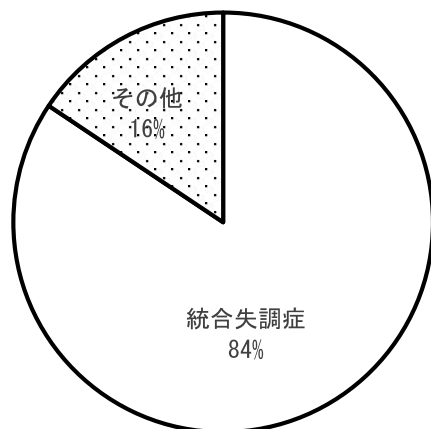
◇病床運営状況

入院患者数 (転入患者数)	退院患者数 (転出患者数)	病床利用率	平均在院日数
6人 (2)	6人 (0)	98.3%	3年6か月

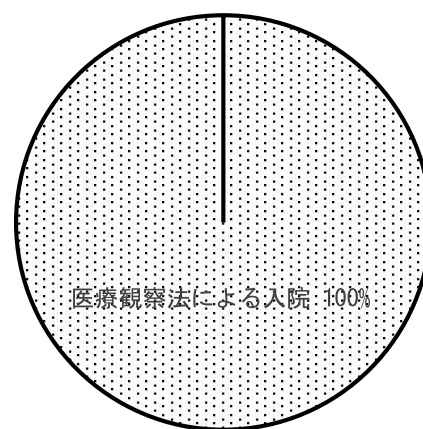
◇患者の状況

○平均年齢 43.3歳

○主な疾病



○入院形態



<活動報告>

プログラム	内容	開催	回数	述べ参加人数				
				対象者	医師	看護師	療養援助部職員	
ミーティング系	全体ミーティング	集団の場に慣れると共に、対象者全員とスタッフによる話し合いを行う。	月1回	11	296	12	120	44
	朝の会	生活リズムを整え、自分自身の病状、体調、気分、意欲を確認するため、各ユニットで毎朝各自の報告が行われる。	月～金	219	6,259	3	2,176	909
	ユニットミーティング	対象者同士の信頼関係づくりやコミュニケーション能力等の向上のため、ユニット内で生活上の問題やルールを話し合う。	週1回(金)	32	874	0	320	166
看護心理教育	いずれのプログラムも認知行動療法の手法を用いて行われる。		1クール					
	サクラソウ	治療の導入を円滑にする。	全4回	24	6	4	22	16
	ケヤキ	疾病理解を促し、服薬に対するアドヒアランスを向上させ、集団での協調性を養う。	全7回	16	79	0	45	13 薬剤師4
	シラコバト	再発を予防し、生活能力を再獲得することを目的に行われる。	全10回	28	103	1	56	17
認知行動療法・スキル獲得系	SST	日常生活技能獲得・対人交流技術向上を目的に対人関係場面の練習等を行う。	週1回	24	123	0	50	33
	WRAP 元気回復行動プラン	グループ体験を通して、自らに備わっているリカバリーする力を引き出すと共に、お互いにリカバリーしている事を感じる場。	2クール 30回	28	351	0	86	30
	物質使用障害	再使用予防の方策を、講義や互いの体験の話し合いから考える。自助グループへの導入目的で行われている。	週1回(金)	19	76	0	46	2
	AAメッセージ	再飲酒予防のために、互いの体験や希望を分かち合う集まり。他者の体験を聞き・自らの思いを語る場。	月1回	19	76	0	46	2
その他	看護面接	治療関係の構築、評価のための情報収集、治療の般化を促す。また内省深化を図る等の目的で行う。	不定期	227	435	2	460	17
	レクリエーションプログラム	6月 映画鑑賞 10月 映画鑑賞 12月 クリスマス 3月 映画鑑賞	年4回	4	72	0	23	8

<まとめ>

- 1 病床利用率は98.3%であり、目標の97.0%を上回ることができた。年間を通じて埼玉県内に鑑定入院の患者がおり、満床が続いたため他県で医療観察法入院処遇となった。現在3年以上入院している対象者が9名おり、平均在院日数は3年6か月と長くなっている。
- 2 心理教育プログラムは、個別介入を取り入れ、対象者に合わせたプログラム内容となった。
- 3 認知行動療法・スキル獲得系プログラムは、外部講師によるプログラムが実施できず、看護師がプログラムを運営した。